

厚生労働科学研究費補助金

希少癌診療ガイドラインの作成を通じた 医療提供体制の質向上

日本癌治療学会ガイドライン作成・改訂委員長	小寺泰弘
日本癌治療学会ガイドライン統括・連絡委員長	藤原俊義
日本臨床腫瘍学会ガイドライン委員長(当時)	室 圭
日本病理学会コンサルテーション委員長	小田義直
国立がん研究センター希少がんセンターセンター長	川井 章

第55回日本癌治療学会学術集会 COI 開示

筆頭発表者名: 小寺泰弘

私の今回の演題に関連して、開示すべきCOIは
ありません

胃癌 治療ガイドライン



医師用 2014年5月改訂 第4版

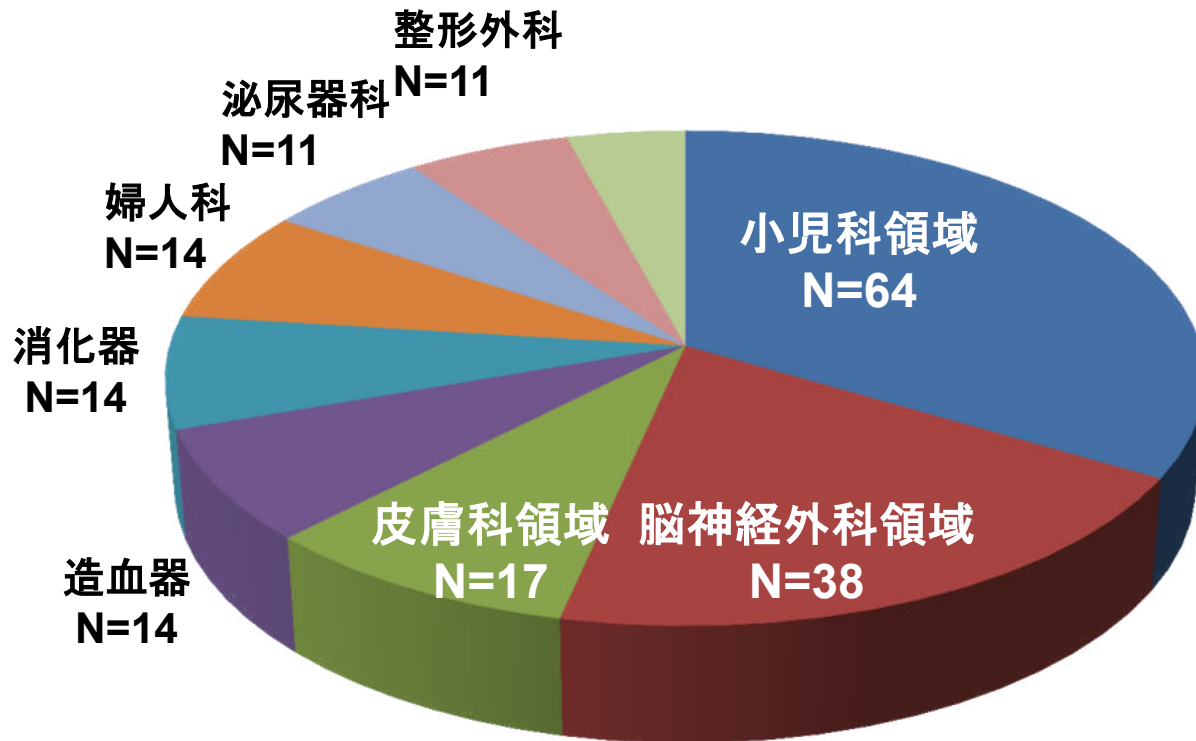
日本胃癌学会 編

金原出版株式会社

Japanese Guidelines for Treatment of Gastric Cancer 4th edition

名古屋大学IRB 過去5年間で審査した抗癌剤の「適応外使用」

希少癌ゆえにレジメンが認証されていない
再発時、二次治療での使用など



がん診療ガイドライン作成・改定委員会

がん診療ガイドライン作成・改定委員会の役割

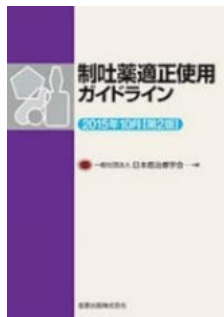
1. **本学会として作成すべき診療ガイドラインについて検討し、理事会で必要と認められた場合、作成ワーキンググループを設置し、作成作業を統括する。**
2. **本学会において作成された診療ガイドラインの改訂の要否を判断し、必要な場合には、担当ワーキンググループに改訂の勧告を行う。**
3. **本学会において作成された診療ガイドラインの事後の評価について、必要な場合には、担当ワーキンググループに評価実施の勧告を行い、また、担当組織を整備・統括する。**
4. **本学会に診療ガイドライン作成(他団体との合同も含む)の要請があった場合、その妥当性を判断し、対応を決定する。
(統括・連絡委員会と協議)**



領域横断的ガイドラインの作成と改訂

がん診療ガイドライン作成・改訂委員会：小寺泰弘委員長

- 制吐薬適正使用ガイドライン改訂WG 佐伯俊昭 委員長
(2015年10月第2版発行)



- G-CSF 適正使用ガイドライン改訂WG 木浦 勝行 委員長
(ver. 4 2017/4/3 jsco-cpg.jpにて公開)

- 小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成WG



青木大輔 委員長



他学会との連携

がん診療ガイドライン作成・改訂委員会：小寺泰弘委員長

日本臨床腫瘍学会、日本腎臓学会、日本腎臓病薬物療法学会

- がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン2016 堀江順郎委員長



日本臨床腫瘍学会

- 高齢者のがん薬物療法ガイドライン
(2018/4公開予定)

安藤雄一委員長

日本胃癌学会

- GIST診療ガイドライン改定WG
- GIST診療ガイドライン評価WG
(改定開始)

廣田誠一委員長
馬場秀夫委員長

日本癌治療学会ガイドライン作成・改定委員会

委員長	小寺泰弘	名古屋大学	消化器外科
副委員長	藤原俊義	岡山大学	消化器外科
委員	明石定子	昭和大学	乳腺外科
	安部能成	千葉県立保健医療大学	緩和医療
	安藤雄一	名古屋大学	化学療法部
	小野 慈	自治医科大学	小児外科
	梶山広明	名古屋大学	産婦人科
	川井 章	国立がん研究センター	骨軟部腫瘍科
	島田英昭	東邦大学	消化器外科
	長島文夫	杏林大学	腫瘍内科
	西山博之	筑波大学	泌尿器外科学
	室 圭	愛知県がんセンター	薬物療法部
	吉田雅博	日本医療機能評価機構	

「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会報告書」の取り組むべき課題

平成24年6月 第2期目のがん対策推進基本計画が閣議決定

取り組むべき施策として、「患者が安心して適切な医療を受けられるよう、専門家による集学的医療の提供などによる適切な標準的治療の提供体制、情報の集約・発信、相談支援、研究開発等のあり方について、希少がんが数多く存在する小児がん対策の進捗等も参考にしながら検討する。」と示された。

平成27年3月、厚生労働省健康局に「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会」を設置→報告書

〔取り組むべき課題〕



〔「各テーマ別の取り組むべき施策」に盛り込まれた主要な内容〕

- 病理診断：病理診断の質の向上、専門性の研鑽を可能とする体制整備、病理コンサルテーションのさらなる整備
- 医療提供体制
 - 治療：的確な専門施設・専門医の情報を公開し、集約化を進める
 - 人材育成：希少がんの経験を蓄積した医療機関を確保し、医師の教育・育成を行う。
- 情報の集約・発信：情報の質を担保した上で、必要な情報を発信し、早期に適切な医療機関につなぐ
- 相談支援：国立がんセンター希少がんセンターの「希少がんホットライン」と連携する等の適切な対応ができる相談員の教育、確保
- 研究開発：集約化により、希少がんの臨床試験・基礎研究を進めやすい環境を整備



厚生労働省研究班： 希少癌診療ガイドラインの作成を通じた 医療提供体制の質向上



相談者のニーズを把握

日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会

日本病理学会
コンサルテーション
委員会

日本整形外科学会、日本脳腫瘍学会、日本泌尿器科学会等

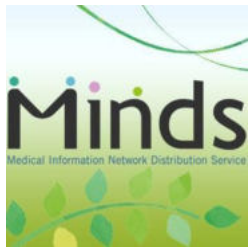
軟部肉腫(改定)、成人膠芽腫(改定)、
陰茎癌、小腸癌、頭頸部腫瘍(新規)

各疾患の診療経験が豊富な医療機関の把握

各疾患の診療経験が豊富な医師の把握

各疾患の診断経験が豊富な病理医の把握

エビデンスが少ない
希少癌のガイドライン
作成の手法を確立





厚生労働省研究班： 希少癌診療ガイドラインの作成を通じた 医療提供体制の質向上



相談者のニーズを把握

日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会

日本病理学会
コンサルテーション
委員会

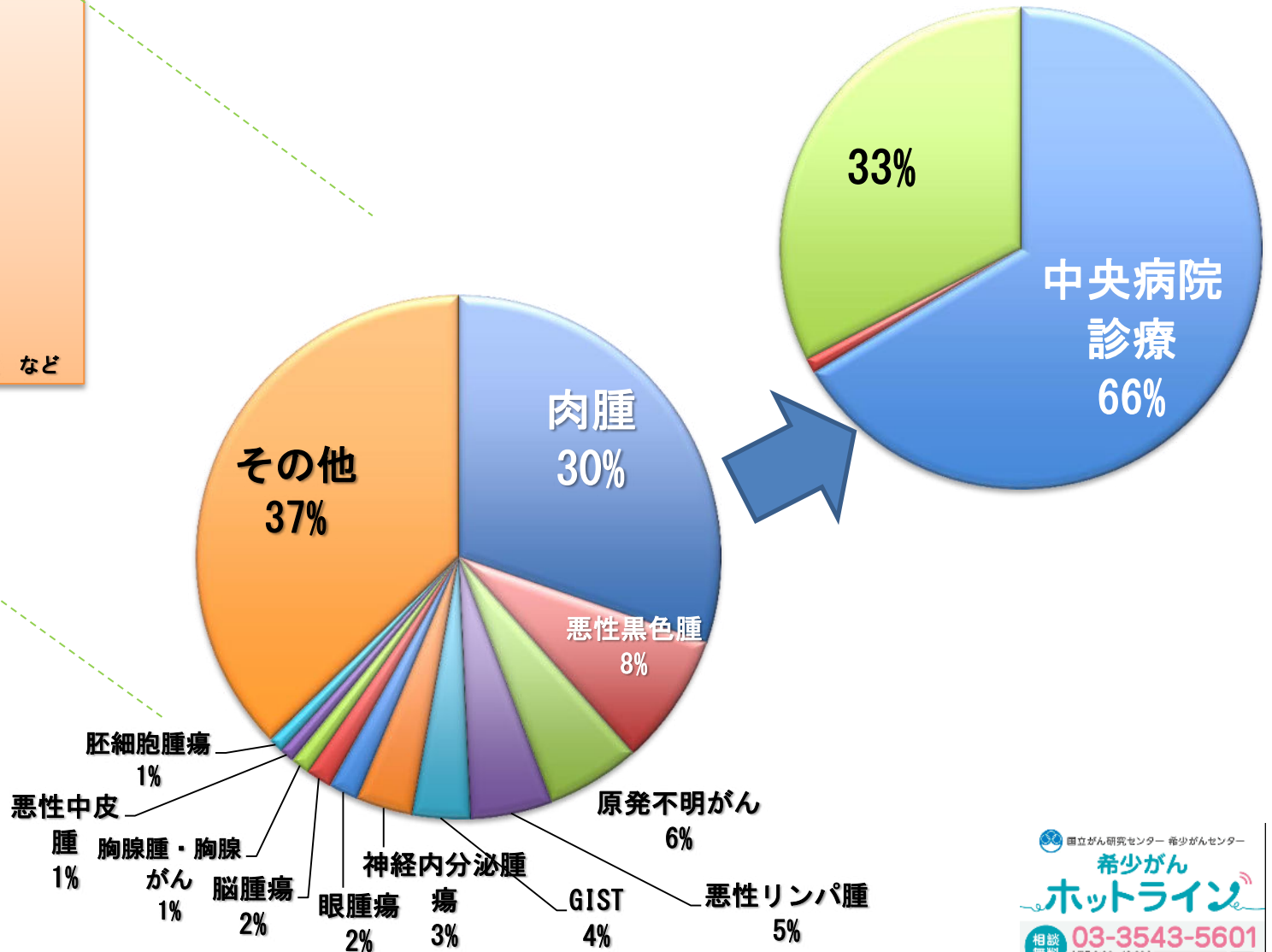
日本整形外科学会、日本脳腫瘍学会、日本泌尿器科学会等

研究班として実際に行うこと

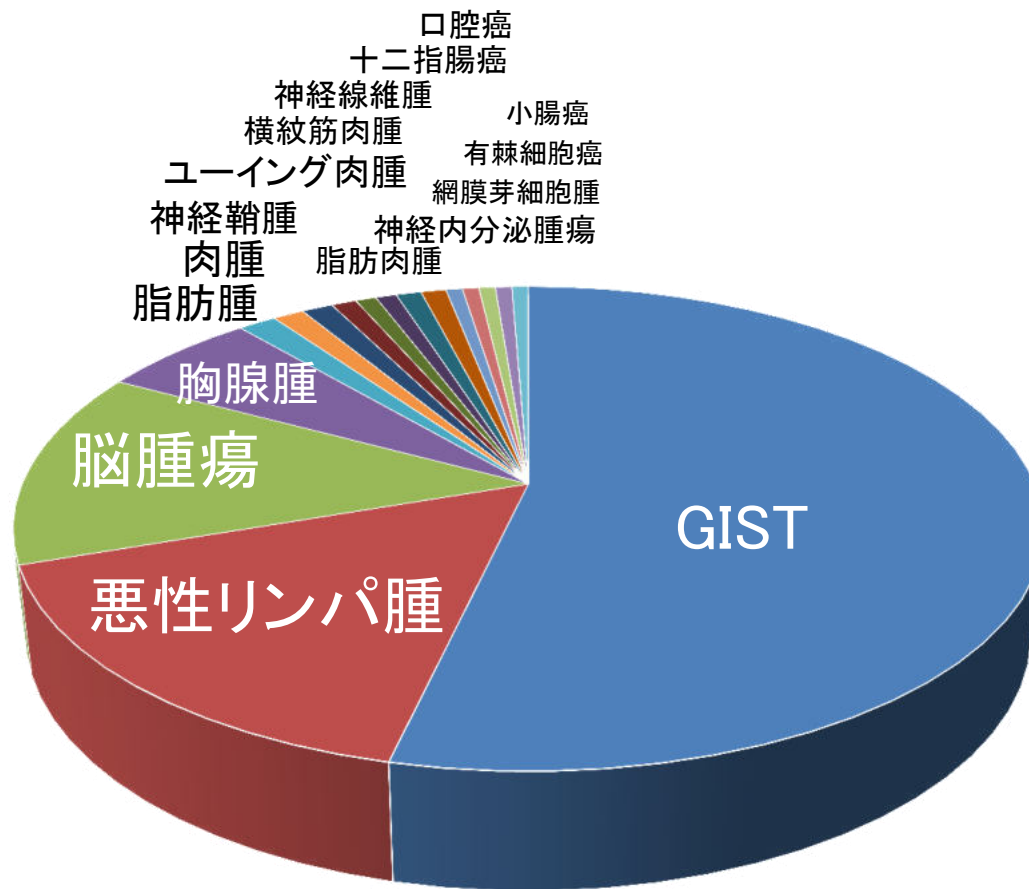
1. 希少癌の実情調査(国立がん研究センター希少がんセンター中心)
2. ガイドラインの提案、各学会ガイドライン委員との折衝
3. 希少癌のガイドライン策定に伴う交通費、会議費用、文献検索費用などの負担
4. 希少癌のガイドライン策定に必要な委員の派遣(腫瘍内科医、患者代表など)

「希少がんホットライン」相談時の患者の病名 2014年1月～2016年7月 7241名

- 聴器がん
- 腺様嚢胞がん
- 嗅神経芽細胞腫
- 口腔がん
- 尿管がん
- 副腎がん
- 腹膜がん
- 腔・外陰がん
- 神経内分泌がん
- 小腸がん
- 肛門がん
- 乳房外パジェット病
- 汗腺がん
- メルケル細胞がん
- 成人T細胞白血病/リンパ腫 など



ネット検索のヒット数の解析



日本脳腫瘍学会 脳腫瘍診療ガイドライン
杉山一彦委員長

日本泌尿器科学会ガイドライン委員会
江藤正俊委員長

日本整形外科学会 軟部腫瘍ガイドライン
川井 章先生

日本癌治療学会 GIST診療ガイドライン作成WG
(日本胃癌学会) 廣田誠一委員長

日本脳腫瘍学会 脳腫瘍診療ガイドライン

杉山一彦委員長

日本泌尿器科学会ガイドライン委員会

江藤正俊委員長

日本整形外科学会 軟部腫瘍ガイドライン

川井 章先生

日本癌治療学会 GIST診療ガイドライン作成WG

(日本胃癌学会)

廣田誠一委員長

頭頸部癌診療ガイドライン

林 隆一理事長、丹生健一委員長

小腸癌？肛門管癌？